

日本の未来の
ために



公益財団法人 Tazaki 財団

日本の若者を留学支援、 真のグローバルリーダーへ

日本は経済成長に伴って国際化が急速に進み、世界に拠点を展開する企業も大いに増えたが、さらなる成長を目指す段階に来て、国や文化、価値観の違いを超えて力強くビジネスを推進できるグローバルリーダーが乏しいという人材の課題が明らかになってきている。その根底には、日本の教育制度は教科書を重視した底上げ型で、突き抜けた個性を育むことには向いていないといった教育システムの問題が横たわっていると思われる。英国の大学で学び、海外で起業して多くの事業を立ち上げてきた田崎忠良は、こうした日本の教育の課題解決を、先駆者である自分が率先して担わなければと感じていた。いま必要なのは流暢に英語が話せる人材ではなく、真のグローバルリーダーと呼べる人材だ。忠良はこのような使命感から、2016年8月1日、世界最高峰のオックスフォード大学やケンブリッジ大学などの英国大学への留学を目指し、将来あらゆる業界で世界のリーダーとして活躍する若者たちを支援するTazaki財団を設立した。

真のグローバルリーダーの 育成をめざして

1962年に19歳で英国に渡り、パブリックスクールを経てケンブリッジ大学に進学。卒業後には、JACを含めた多くの事業を自ら立ち上げ、Tazakiグループを築いた田崎忠良は、海外でさまざまな事業を展開するなかで、自分が英国で学んだことを日本に還元したいと考えてきた。忠良自身の半生を振り返ったとき、成功をつかむことができたのは、英国で世界最高峰の教育を受け、現地の仲間と切磋琢磨しながら勉強に励み多くの経験を積んだことが後の人生のすべての基本になったと考えているからだ。その自らの経験から、将来を担う日本の若者をグローバルな環境の中で育成することこそが日本の未来に必要で、それを実行するのが自らの使命だと確信する。具体的に行動に移したのは1985年、忠良は日本で英国式の中等教育を行う全寮制の学校を設立するという壮大なプロジェクトを始動させた。

日本での学校設立に向け、ケンブリッジ大学、名門パブリックスクール、英国政府からの協力を得ることに成功し、前途は明るいように思われたが、日本の文部省（当時）は同省が認めた教科書に沿った授業が絶対とし、学校設立を頑なに認めようとしなかった。忠良はその後も粘り強く規制緩和に向けた交渉を続けるが、約6年を費やして挑戦し続けた学校設立プロジェクトは最終的に断念を余儀なくされた。

しかし、日本の若者を世界で通用する人に育てる必要があるという思いは、いつも忠良の胸中にあった。それから25年後、日本の企業がグローバルで活躍し始めたことと逆行するかのように、海外に出ていく若者の数は年々減少の一途をたどっていた。この現実にも危機感を覚えた忠良は、世界で活躍できるリーダーを輩出するために、自らの考えを方法を変えて、もう一度実行に移したいと考え、5年間の返済不要の奨学金制度を計画。そしてついに2016年、日本の優秀な若者の英国留学を奨学金で支援するTazaki財団が誕生したのである。



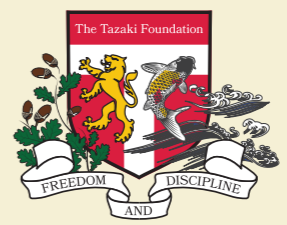
2017年、第1期生の壮行会にて



2022年、第6期生の壮行会にて



留学中の第1期生とともに英国にて



財団の 支援活動 留学費用を返済不要の 奨学金として全額支援

Tazaki財団は、16歳の高校生を対象に、パブリックスクール（私立一貫校）の2年間と英国大学学部3年間の計5年間の留学費用の全額を返済不要で支援している。留学に伴う実費を支援しており、学費・寮費など一人あたりの支援総額は約6,000万円～7,000万円に及ぶ。留学を目指す高校生は年1回の募集に応募し、書類選考と複数回の面接を通じて選抜。大きな特徴は、対象者の年齢を高校1年生（16歳以下）と限定していることだ。これは「19歳でも留学には遅すぎた」という忠良自身の実感が元になっている。英語の学習は、吸収力が早い若い頃から始めた方が良いのは紛れもない事実である。しかし、単身で海外に留学するとなると義務教育中の中学生では若すぎる。また高校卒業後の19歳ではパブリックスクールへの入学が不可となってしまうため、高校1年となる16歳がぎりぎりの年齢だと考え

た。Tazaki財団は、英国大学への留学だけを目的とせず、留学生が16歳から18歳の2年間をパブリックスクールで生活し、学ぶことを重要視している。パブリックスクールから大学までを一貫して支援するこのシステムはTazaki財団にしかない、ユニークかつ実践的なものとなっている。また、高額な奨学金を返済不要としたのは、忠良自身が留学時代に苦労したような経済的な心配をせずに、英国で学業に専念し、仲間と充実した学生生活を送ることができる環境を作ることが最重要であると考えたからだ。

またTazaki財団では、留学の奨学金支援に加え、第一次選考を通過した生徒には国際社会で活躍する素地を養うため英語研修の補助を提供している。さらに委託型奨学金として、日本の大学生の英国留学の支援や、ケンブリッジ大学大学院の特定の学科に対する奨学金設定も行っている。このほかにも日本の中高生の英語ディベート大会運営組織への支援を開始するなど、「真のグローバルリーダーの育成」を目指す支援活動をより多方面に拡大している。

今後の展望 世界で唯一無二のネットワークを作る

Tazaki財団は2016年の設立以来、2025年3月現在、累計で61人の留学生を英国に派遣・支援しており、語学研修生や委託型奨学金留学生なども加えると、支援した学生は延べ416人にのぼる。初年度は5名の選出で始めたが、2023年現在は9名に増加。また、すでにケンブリッジ、オックスフォードやロンドン大学などの英国の優良大学を卒業した生徒もおり、グローバルリーダーの卵たちは日本国内外の官庁や大手企業、研究機関などに就職。未来の日本、また世界のリーダーとしての活躍が期待されている。

このTazaki財団の多岐にわたる支援によって目指しているひとつが、グローバルなネットワークの実現だ。今後、Tazaki財団の支援を受けた多くの若者たちが世界で活躍し、ひとつにつながることであれば、将来世界で活躍する際に心強いグローバル人材のネットワークを得ることになる。個の力を磨く支援に加え、グローバルリーダーのつながりを創出していくことで、日本と世界の間を変えていけると確信している。

■支援実績 ●単位：人数

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
留学生	5	5	8	7	9	8	10	9	未定	61
語学研修生	20	22	22	22	24	24	30	30	30	224
TOPS※参加者	8	14	10	-	オンライン	15	15	13	未定	75
語学研修生留学奨学生	-	-	-	-	1	2	-	-	2	5
委託型奨学金	東京大学	-	-	-	-	-	11	7	6	24
	東京科学大学	-	-	-	-	-	2	4	11	17
	一橋大学	-	-	-	-	-	-	5	2	7
	ケンブリッジ大学大学院 (Computer Science)	-	-	-	-	-	2	1	-	3
合計	33	41	40	29	34	49	70	69	51	416

※TOPS:Tokyo Oxford Programme of Summer。オックスフォード大学およびケンブリッジ大学で実際に学生を教えている教員による授業と個別指導を体験する約2週間の夏季プログラム。 2025年3月現在